

# 肥満と病気って関係あるの？①



獣医師 早田 範恵

## ■体重と保険金の関係

近年適正体重を超えた犬、猫が増加していると言われており、動物病院においても日常的にみられている。人間と同じように、過体重は様々な病気に悪影響を及ぼすことが疑われている。肥満と病気の関係性を明らかにして病気の予防につなげたいと考え、今回、同一犬種における体重と保険金(≒診療費)について調査を行った。

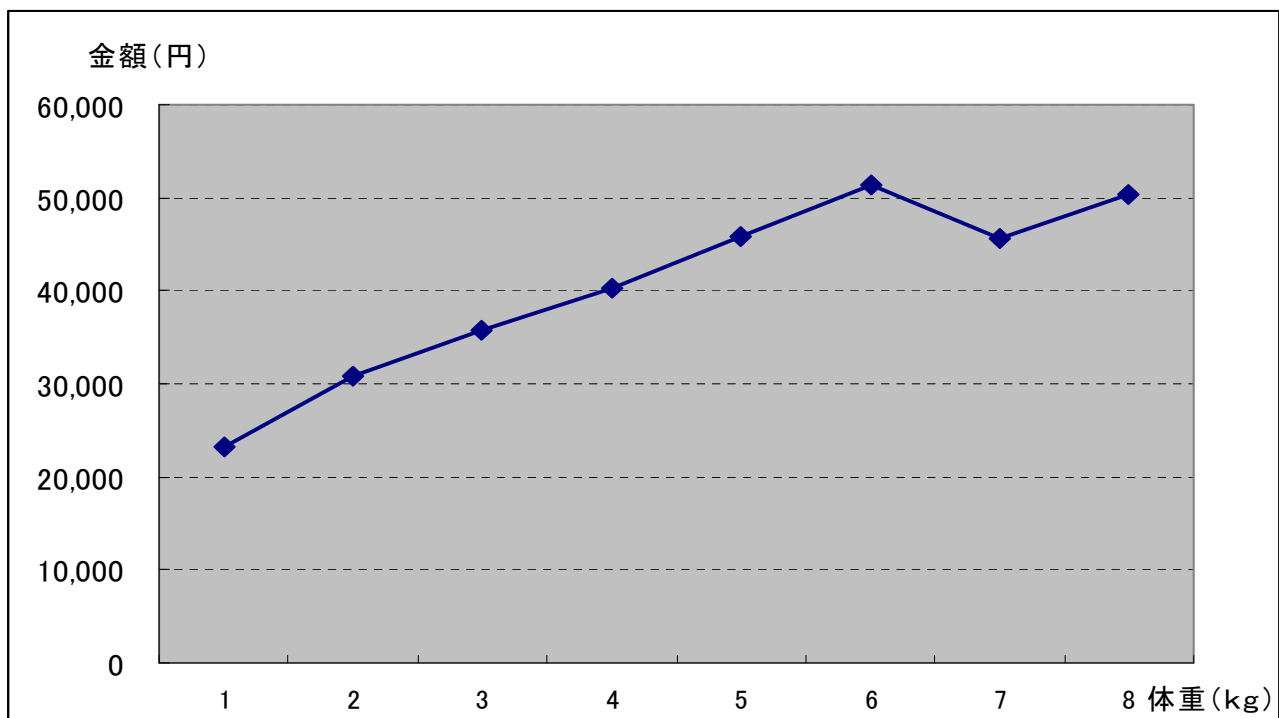
2008年4月1日以降にアニコム損保に契約したシー・ズーのうち体重情報を保有する2,700頭を対象に、年間支払い保険金の額を体重別に集計し、1頭あたりの平均を示した。

※ 体重の登録日は不明であり、今回利用した体重データ、保険金支払い対象となった診療時の体重は同一とは限らない。

※ 1年間の契約において1契約を1頭とみなしており、複数年の契約があるものはその年数分カウントしている。

その結果、体重の重い子ほど支払い保険金の額は高い傾向があることがわかった。なお、体重が重い程治療薬の用量が多くなるといった要因も考えられるが、過体重の影響により疾患の発生が増え、保険金の額の支払いが増えている可能性が考えられる。また、本調査では支払い理由となった疾患の内訳や年齢を考慮していないため、今後さらに詳細な調査を実施したい。

【図：体重と支払い保険金の額 シー・ズー】



体重が重い子ほど

支払い保険金は高額になる



## 肥満と病気って関係あるの？②



獣医師 早田 範恵

## ■体重別の疾患内訳

同一犬種においても、体重により罹った病気の種類が異なるかどうかを調べた。体重情報を持つシー・ズー784頭を対象に、体重6.5kg未満を体重の軽いグループ、体重6.5kg以上を体重の重いグループに分け、保険金支払い理由となった病気の構成比を集計した。

※ 対象データは請求件数であり、同一どうぶつが複数回通院した場合も別にカウントした。

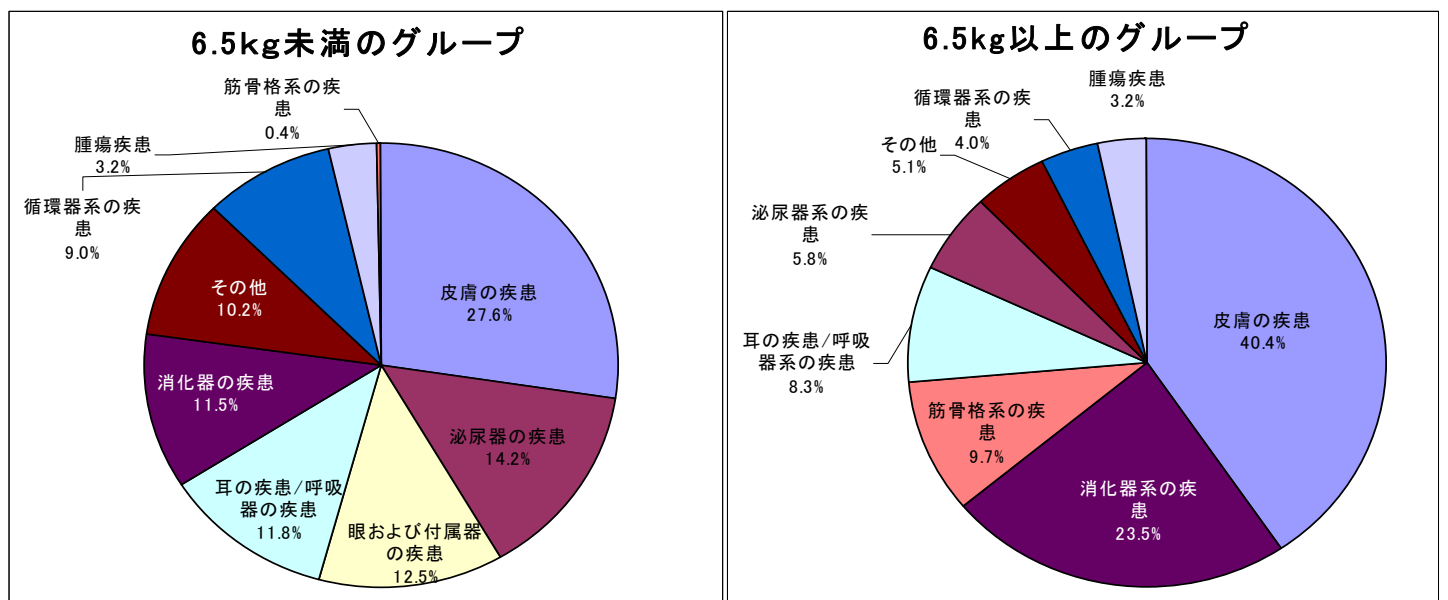
※ 1回の保険金請求に複数の症状診断名があった場合はそれぞれ別にカウントした。

体重の重いグループと軽いグループでは、病気の内訳に違いが見られた。体重の重いグループでは皮膚の疾患(軽いグループに比べ約1.4倍)、消化器系の疾患(同約2倍)、筋骨格系の疾患(同約24.2倍)が多い傾向であった。

今回のデータから、体重増加によりその発生に影響するような疾患が増えたために、体重が重いグループの疾患の構成比が異なっている可能性が考えられる。

今回の調査ではボディコンディションスコア(BCS)等は考慮しておらず、体重のみでグループ分けを行った。疾病と肥満との因果関係を調べるためにはBCS、罹患率、年齢等を考慮した更なる調査が必要であり、犬種ごとの疾病の傾向の違いなども考慮してさらなる調査を進めていきたい。

【図:グループ別の請求件数の内訳(%)】



体重によって

かかりやすい病気がちがう